

開講期	2025年度前期			単位数	2.0単位
科目[授業]名	5124 英語で楽しむ2			開講形態（隔週 偶数＝隔週2コマ）	週間授業
種別	なし			定員	
履修可能学年	全学年履修可	重複履修	○	全学開講	○
曜日時限	月曜3限				
教室	C104教室				
代表教員	遠藤 朋之				
担当教員	遠藤 朋之				
テーマと到達目標	J-Pop（このことばも古いかな？）の歌詞を持ってきてもらい、学期中に詩の技巧を学び、最終的に、最初に持ってきた歌詞を換骨奪胎し、受講生が自身の新たな詩を作ることが目的。詩の技巧を過去の作品に学びながら、creative writing を行ってもらおう。				
概要	最初に J-Pop、そのほかの自分の好きな歌詞を持ってきてもらい、各学生に、どこが面白い、良いのか、発表してもらおう。それ以降、"Sound・Sight・Sense（ことばの音楽性・イメージ・意味）"を中心とした日本、アメリカの詩を読む。すると学生諸君は、詩の技巧がわかってくるだろう。そしてその技巧を駆使し、最終的には、自分の持ってきた歌詞を、「歌詞」ではなく「詩」にしてもらうことが目的だ。授業中に他の受講生の前で自作の詩の音読をすることは必須。また、英語の詩を読む場合は、学生にプレゼンテーションを行ってもらおう。				
対面科目/オンライン科目	対面科目				
授業計画				担当教員（複数の教員が担当する場合のみ記載）	授業方式
第1回	introduction				対面授業
第2回	「音の詩1」 "I Am Nobody" (Emily Dickinson)、学生の選んだ詩の魅力の発表。				対面授業
第3回	「音の詩2」 "Preludes" (T. S. Eliot)、学生の選んだ詩の魅力の発表。				対面授業
第4回	「音の詩3」 "Buffalo Bill's" (e. e. cummings)、学生の選んだ詩の魅力の発表。				対面授業
第5回	「音の詩4」 "ygUDuh" (e. e. cummings)、学生の選んだ詩の魅力の発表。				対面授業
第6回	「音の詩5」 e. e. cummings "in Just"、学生の選んだ詩の魅力の発表。				対面授業
第7回	「イメージの詩1」 Imagist poems。				対面授業
第8回	「イメージの詩2」 Imagist poems.				対面授業
第9回	「イメージの詩3」 日本のイマジスト詩。				対面授業
第10回	「意味の詩1」 "The Snowman" (Wallace Stevens)				対面授業
第11回	「意味の詩2」 "A Supermarket in California" (Allen Ginsberg)				対面授業
第12回	「詩としか呼べない詩1」 "Hum Bom" (Allen Ginsberg)				対面授業
第13回	「詩としか呼べない詩2」 玉階怨（李白&Ezra Pound）				対面授業
第14回	学生による、自分の詩の発表1。				対面授業
第15回	学生による自分の詩の発表2。				対面授業
成績評価の基準	初回に自分で選んだ J-Pop の歌詞を自分なりに翻案した作品を含む 2400字以上の、学期末のレポート（80%）。及び、学生間による評価、そして授業への参加度(20%)。				
履修にあたっての留意事項	英語の詩作品も読むので、英和辞典は必携。				
オンライン授業方式(同時双方向型・オンデマンド型)の詳細					
【種別】人数制限（抽選）授業の優先条件					

◆教科書・教材

教科書以外に必要な教材費用			
教科書	授業で扱う詩はアップロードする。初回授業で持ってくる歌詞に関しては、自分で用意すること。	教科書(ISBN)	
参考文献	随時、紹介する。	参考文献(ISBN)	